

田中康夫の



130

朝日新聞「行政連絡」②

「その必要性を当社は認めず」。
朝日新聞で役員待遇、広報・内
部監査担当、社長室長を務める荒
木高伸氏は言い放ちます。後にテ
レビ朝日系列の名古屋テレビ放送

告抜き全15段3面に及ぶ「検証
虚偽メモ問題 信頼される報道の
ために」を掲載した「了見を、同
じ表現活動の一隅で携わってきた
者として甚だ疑問に感じる」。

掲載から35日後の2005年10
月20日、新聞・TV・雑誌等の表
現者で立錐の余地なき長野県庁1
階ガラス張り知事室で2時間に亘
り対峙するも、「(再取材の)
必要は無かった」の一点張り。

『噂の真相』休刊後の『週刊SP
A』連載「田中康夫の東京ペロ
グリ日記リターンズ 信州コモン
ズ革命篇」で僕は述懐しています。

『朝日ジャーナル』『週刊朝日』
『UNO!』各誌並びに『朝日新
聞』本紙でも連載経験を有する僕
は、今や果たして『朝日』は共に
語るに値するの、か、と深い失望に
陥る。勤性も温性も鋭き書き手は
多いのに、経営陣や論説陣に登り
詰めるノーメンクラトゥーラの智
性が問題」と。

社長として日本民間放送連盟副会
長も務める御仁です。
「当事者で被害者の私と亀井静香
氏への聞き取りも行わず、両者の
コメントすら1行も載録せず、広

元より独立採算で税金は使われ
てなかった郵政事業は、巨額の財
政支援が為されていた旧国鉄とは
異なり、故に森永卓郎、野口悠紀
雄、西尾幹二の各氏と共に「本質
的議論を欠いた郵政民営化論」を

囃っていた僕は、第88代内閣総
理大臣が8月8日に「郵政解散」
5日後の13日、以前から知己の亀
井静香氏と東京で懇談。綿貫民輔
氏らと国民新党を結成の亀井氏に
呼応して、東名阪選出の自由民主
党を離党した面々と新党日本を21
日に結党。代表に就任します。

朝日新聞は21日、22日の両日付
紙面で、「亀井静香・元自民党政
調会長は長野県内で今月13日、田
中康夫氏と会談」と報じます。翌
23日、「重箱の隅」的質問を繰り返す「信濃毎日新聞」記者らとの
知事会見85分間の最後に、「亀井
さんと県内ではお目に掛かってお
りません」と僕は述べました。

すると朝日新聞は「総選挙きよ
う公示」と見出しを冠した30日付
朝刊1面左下で「『虚偽のメモ』
で記者を解雇 本紙、選挙で誤つ
た記事 東京編集局長ら更迭 取
材倫理、抜本的に再点検」と題す
る1284字の本記を掲載。東京
都内を長野県内と「誤記」への

「過剰反応」に驚愕の僕は更に、
『信頼される報道のために』委員
会「検証結果」掲載9月15日付紙
面で、朝日新聞「伝統芸」の宿痾
を痛感します。

豈図らんや「虚偽メモ」作成者
は、当時「亀井番」だった政治部
次長に非ず。各地の総局・支局へ
本社から下知する。上から目線
な「行政連絡」を受けた長野総局
20代記者が僕に当たるべく8月20
日13時から塩尻市で開催「知事と
語ろう信州の明日」車座集會に趣
くも、「17時からの泊まり勤務に
遅れるな」と上司から厳命が下り、
2時間40分に及んだ集會を中座し
て総局に戻り、「僕の両親が暮ら
す」軽井沢で恐らく会談の模様
と「行政連絡」を作成。政治部は
亀井氏への「直当て」を怠つた儘
で紙面に「反映」が事の次第。

件の「番記者」曾我豪氏は減給
無しの「戒告」。政治部長に栄達
後の現在も「政党政治、教育改
革」担当編集委員を務めます。

前稿で詳述の「行政文書」4通
発出に留まらず、横浜市役所報
道担当部長が神奈川新聞社に乗り
込み、回答要求の威圧的行為に新
聞労連「日本新聞労働組合連合が
「抗議文」を本年2月17日発表す
るに至つた山中竹春市政には「失
点がない」と若手記者2名が署名
原稿を出稿した朝日新聞横浜総局
の「宿痾」は次号も続きます。

★次号4月号の発行日は6月28日(金)です。